

道徳科学習指導案

平成30年11月2日（金） 第1学年

1 主題名 「最後までやり遂げる」

A 主として自分自身に関すること 5 希望と勇気、努力と強い意志

2 教材名 「こぐまの らっぱ」 ～ つよい きもちで しっかりと ～

（東京書籍 新しい道徳 1）

3 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、学習指導要領内容項目「A.主として自分自身に関すること」の「5.希望と勇気、努力と強い意志 [第1学年及び第2学年]自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」をねらいとしている。

これは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させる児童を育てることをねらった内容項目である。この項目は、中学年の「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜くこと。」、高学年の「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」、中学校の「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」に発展していく内容である。

この段階の児童は、何事にも意欲的に取り組もうとし、やるべきことを素直に行おうとするが、好き嫌いや困難を感じるとくじけてしまう傾向にある。やるべきことをしっかりと行うことは、自分自身を高めていく上で大切であり、児童が主体的に取り組めるようにする必要がある。

そのため、児童には、自分が行わなければならないことに気付き、しっかりと行うことの意義を自覚させたい。そして、途中で困難や失敗があっても、それを乗り越えてやり遂げる喜びや達成感を大事にし、自分がやるべきことをしっかりと行う意欲を高めたい。

（2）児童観 略

（3）教材観

本教材は、音楽隊の演奏会に向けて、らっぱを担当しているこぐまが主人公である。上手く演奏できずくじけそうになりながらも練習に取り組み、最後に演奏会を成功させる話である。

こぐまは一生懸命努力しているが、練習中なかなか上達せずいい音が出せないため、らっぱを吹くのをやめようとする。しかし、小鳥たちの会話からヒントを得て練習を再開する。努力を重ね、だんだんいい音が出せるようになり、演奏会は大成功する。演奏会が成功し、観客の拍手や応援してくれた仲間が喜ぶ姿に、こぐまは嬉しくなる。音楽隊の一員として役割を自覚し、お客さんのことを思い練習に励むこぐまの姿を通して、途中で投げ出してしまうとやり遂げることの大切さを描いたものである。

教材に示された場面や内容は、児童自身の経験とも結び付けやすい。練習してもできない困難さにくじけそうになる気持ちや、周囲の助言を聞き、何度も練習をする主人公の心情を考え、やり遂げたときの喜びを想像できる教材である。主人公を通して、あきらめそうになる気持ちを乗り越え、最後までやり遂げることで得る喜びや満足感を感じ取らせることにより、やるべきことはしっかりとやり遂げようとする意欲を高めることができ、常に自分自身を高めようとする実践意欲を育てていくのに適した教材であると考えられる。

4 指導方針

<事前>

- ・音楽隊の演奏会の話が特別な話ではなく、自分にとっても似たような経験のある話であることに気付けるよう、自分がやるべきことや、頑張らなくてはならないことにはどんなことがあるか、アンケートでとっておき、導入時に示すことで、ねらいへの方向付けを行う。

<本時>

○発問

・中心発問では、各自で考えた後、多様な面から心情を考えられるように、役割演技を取り入れる。演奏会が終わった後の主人公の気持ちをインタビュー形式で問うことで、できるようになって嬉しかったことだけでなく、「練習をやめずに、続けてよかった。」「お客さんが喜んでくれて、嬉しい。」など、やり遂げた後の満足感や充実感、やるべきことをしっかりと行うことの意義にも気付かせたい。「こぐま」役となった児童に教師がインタビューすることで、断片的になりがちな児童の発言に対して、受容したり問い返したりしながら、ねらいとする価値に迫りたい。また、役割演技をしている児童だけでなく、見ている児童にも問いかけて、価値について考えられるようにしたい。

・主な発問では、主人公の葛藤を考える。練習をしてもできなかった悔しさや恥ずかしさとともに、上手くできずくじけそうになる気持ちに共感させたい。児童自身の経験からも、思うようにいかないことから逃げたくなることや、上達しない練習は続けにくいことなど、誰もが困難に向き合うとき葛藤するものであると、共感的に考えられるようにする。そして、人には弱さがあることを認めることができるようにする。

また、自分自身の経験について想起させ、教材を通して、自分自身について考えられるような発問も行う。できなくて嫌になった気持ちやできるように一生懸命に頑張ったときの気持ち、できたときの嬉しい気持ちなど、教材の場面に合わせて、自分自身の経験や気持ちを見つめさせるようにする。

○教材提示

児童の実態を踏まえ、自我関与したり登場人物の心情と同様の気持ちを一人一人が考えたりできるように、読み聞かせの形態で、状況や心情を確認しながら教材提示をしていく。

○板書

場面ごとに変化するこぐまの気持ちを捉えられるように、場面絵や心情を黑板の上下の位置で表し、葛藤する気持ちや継続的に取り組む過程などの様子を視覚化する。

○他教科との関連

音楽の授業での合奏の体験を思い起こさせたり、これまでの運動会や縄跳び練習などを結び付けたりする。継続的に取り組んだ学習カードや覚えた漢字などを視覚的資料として活用する。

<事後>

学習や行事、係活動など、努力し続けていることや責任をもって取り組んでいることを教材に重ね、具体的に実感をもって、共感しながら取り組むことができるようにする。

5 本時の授業

(1) ねらい

こぐまがあきらめずに努力して、できるようになったときの気持ちを考えることを通して、やるべきことは、最後までしっかりとやり遂げようとする意欲を育てる。

(2) 準備

教師： アンケート結果 場面絵 こぐまの絵 マイク ワークシート

児童： 筆記用具

(3) 本時の展開

過程 時間	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ☆問い返しの発問	予想される児童の反応	支援・留意点
----------	--------------------------------------	------------	--------

<p>導入 5分</p>	<p>1. 今日めあてについてなげかける。</p> <p>○自分のやるべきことには、どんなことがありますか。</p> <p>○どんな気持ちでしていますか。</p>	<p>S: 持久走や縄跳びの練習。 S: 漢字を覚える。 S: 係の仕事。 S: いろいろあるな。 S: いやだな。 S: ちゃんと、がんばっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、自分が頑張らなくてはならないことについて思い起こしやすくなるように、事前のアンケートを提示する。 児童の反応を共感的に受けとめ、続けることが大変だと感じている思いを共有する。
<p>【めあて】 やめたいなとおもったときにも、がんばりつづけるためにはどうすればよいか</p>			
<p>展開 32分</p>	<p>2. 資料「こぐまのらっぱ」を読み進めて、話し合う。</p> <p>①いい音が出せないこぐまの場面について捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習しても上手くいかず、やめたい気持ちになっているこぐまの気持ちを捉える。 <p>○こぐまの気持ちがわかりますか。それは、なぜですか。</p> <p>☆じゃあ、やめていいかな。</p>	<p>S: 分かる。 S: 練習をしているのに・・・、上手くならないといやになる。 S: みんなにまた言われるかな。 S: 困った。不安になってきた。 S: 演奏会が困る。ラッパはこぐまくんだけだから。 S: 他の人にも迷惑がかかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせ、集中して取り組み、状況を把握できるよう、読み聞かせ形式で資料提示をしていく。 練習をしているのに上手くできない気持ちに共感できるような声かけをする。 くじけそうになる弱い心は、誰にでもあるとすることができるような問い返しをする。また、自分自身そのような経験があったか投げかける。
<p>②何度も何度も練習しているときの場面について捉える。</p> <p>○練習しているこぐまはどんな気持ちでしょうか。</p>	<p>S: そうか、小鳥の言うようにやってみよう。 S: 教えてもらったから頑張ろう。 S: 小鳥の言うようにやっているのに、できないな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小鳥たちの会話をヒントに、練習に向かう意欲を取りもどしていくこぐまの気持ちの変化を捉えることができるようにする。 こぐまの心情ベクトルを黒板の上下の位置で視覚的に確認する。 	

	<p>☆鉄棒や水泳、国語や算数などの勉強の時、コツを教えてもらえばすぐにできたかな。</p> <p>☆いい音がでたから、もう練習しなくていいんじゃないの？</p>	<p>S：またいやになってきた。でも、お客さんのためにやらないと。</p> <p>S：コツを教えてもらっても、すぐにはできなかつた。練習を続けたからできた。</p> <p>S：あきらめないぞ。</p> <p>S：よし、この調子で頑張るぞ。</p> <p>S：もっといい音を出したい。</p> <p>S：いい演奏会にしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに頑張りたい気持ちとくじけそうな気持ちの両方が表れることに気付かせたい。 ・演奏会で上手にラップを吹くために頑張りを続けるこぐまの気持ちに共感できるようにする。
	<p>③演奏会の日、上手かった場面について捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いい音が出て、すばらしい演奏会になったとき、どんな気持ちになったか捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 演奏会が終わった後、こぐまはどんなことを思ったでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く。 ・役割演技をし、伝え合う。 <p>☆なぜ、いい音が出せたの？</p> <p>☆たぬきやりすと、こぐまのうれしさは、同じくらい？</p>	<p>S：いい音が出てうれしい。</p> <p>S：拍手をもらえてうれしい。</p> <p>S：みんなに褒められてうれしい。</p> <p>S：みんなが喜んで、うれしいな。</p> <p>S：頑張って練習してよかったな。</p> <p>S：やめないでよかった。</p> <p>S：ちがう。みんなより大きい。</p> <p>S：始めできなくて、頑張った分だけ、大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに上手いかわなくても頑張りを続けることで、よい結果に結び付くことに気付くようにしたい。 ・中心発問について発表する際は、児童がこぐまの役割演技をすることを通してこぐまの心情を追究していけるようにする。 ・教師がインタビュアーになり、こぐま役の発表児童だけでなく、見ている児童からも意見を聞き取る。 ・役割演技を通し、あきらめずに努力したからこそ得られるこぐまの満足感を味わえるようにする。
	<p>【評価の観点】 自分で行わなければならないことを、最後までしっかりと行おうとする ことの大切さについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わり で考えたことを、発言したり記述したりしている。(発言・ワークシート)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・展開の中から出てきた心情の言葉を生かして、
終末	3、自分の生活を振り返り、努力していること		<ul style="list-style-type: none"> ・展開の中から出てきた心情の言葉を生かして、

<p>8分</p>	<p>を教材と重ね、自分の思いを発表する。</p> <p>○「こぐま」のように「頑張ってよかった」「最後まで、頑張ったこと」はありますか。</p> <p>その時、どんな気持ちでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会で、何回も練習したらみんなですろってできるようになった。お家の人に上手だったと褒められた。 ・縄跳びを練習して、○回跳べるようになった。最初はできなかったから嬉しかった。 ・鍵盤ハーモニカが上手になった。練習してよかった。 	<p>意欲を育てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が困難を乗り越えた経験を話し合い、最後までやり遂げたよさについて共感し合えるようにする。 ・運動会や縄跳びのことなど、具体的な場面や例を提示し、どうすれば頑張りが続けたのか想起しやすくする。
	<p>4、今日の学習について振り返る。</p> <p>○やめたいなと思ったときにも頑張りを続けるためには、どうすればよいのでしょうか。</p>	<p>S：練習するとやっぱりできるようになる。</p> <p>S：あきらめずに続けることが、大事なんだな。</p> <p>S：すぐにできなくていやになっても、やめない。</p> <p>S：最後まで頑張るっていいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の取り組みの様子や、思い・願いをワークシートで振り返る。 ・一人一人の考えを肯定的に受け止め、くじけそうになっても、最後まであきらめずやり遂げようとする意欲を育てる。